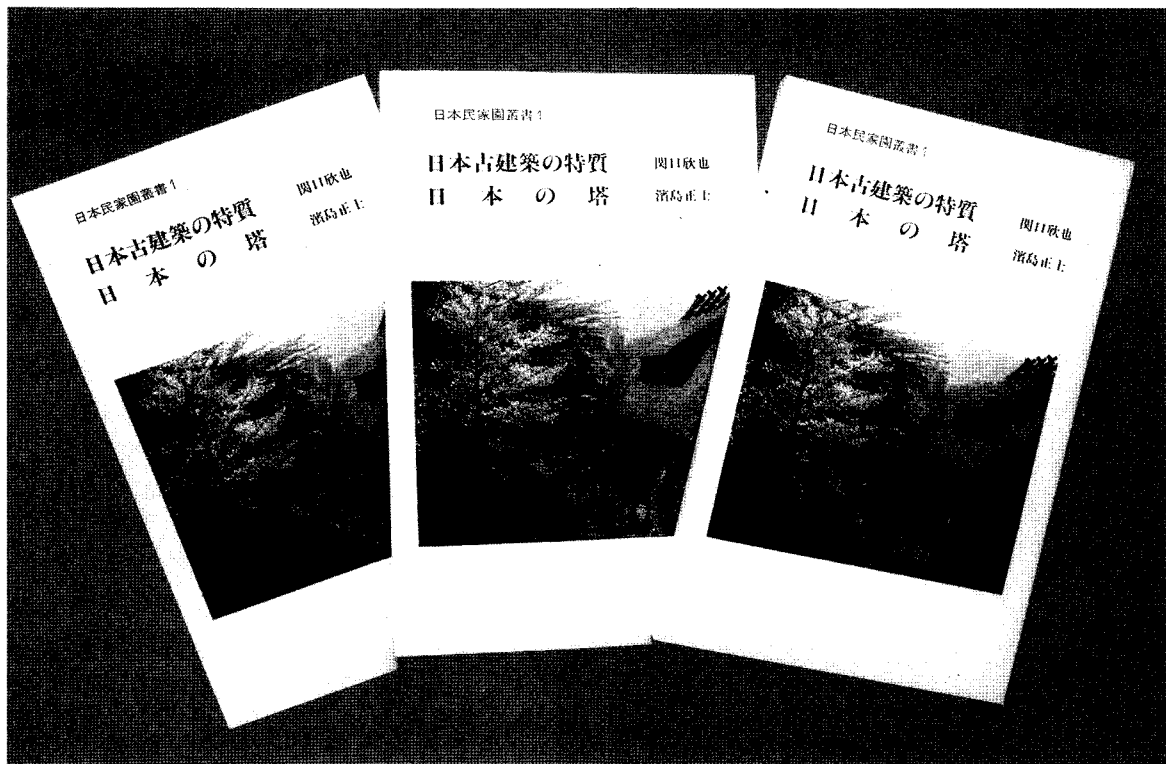


# 川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 39号 平成10年10月15日 編集・発行 川崎市立日本民家園

## 日本民家園叢書 1

# 日本建築の特質 日本の塔



日本の建築の歴史と特徴を総合的に論じられた関口欣也先生の横浜国立大学での最終講義「日本古建築の特質」と、日本文化の象徴的な存在である五重の塔など様々な塔の構造と特徴を民家園で講演していただいた濱島正士先生の「日本の塔」を収録した日本民家園叢書の第1巻を発刊いたしました。

※ 当園及び川崎市市民ミュージアムのショップにおいて販売しておりますのでご利用ください。  
(販売価格1,000円)

# 「民家と生活」調査研究について

日本民家園では平成6年度以来「民家と生活」調査研究委託を行っています。

平成6年度は、川崎市が昭和女子大学に委託して昭和59～62年に事例収集・調査した53件の古民家について郵送アンケートによる追跡調査を行うとともに、その後の知見11件を合わせて「川崎市内の現存茅葺民家リスト」を作成しました。これにより少なくとも39件の茅葺民家（鉄板葺や瓦葺に改造を含む）が現存していることがわかりました。

平成7年度は、作成したリストの民家のうち10例を抽出して、昭和59～60年の調査以降の住まい方の変化や建物に対する今後の対処法等について聞き取り調査を行いました。

平成8年度は、平成6年度作成リストのうち実測図を作成しておく必要がある民家3件を選び、平面と梁行断面について実測図を作成し、あわせて住まい方の調査を行いました。

以上の3ヵ年度は、昭和女子大学竹田喜美子先生を中心とした研究グループに委託して調査を進めてきました。ただし調査を進める中で、リスト以外の茅葺民家がまだ多数現存する感触をつかみ、同



中原区内に残る茅葺（鉄板覆い）民家

時に茅葺民家に住み続ける意志を持った所有者の方々が少ないことが明確になってきました。つまり、従来のリストは不十分、なおかつ茅葺民家の減少は今後も加速していくことが明らかで、今のうちに川崎全域について茅葺民家の所在リストを作成する必要があります。

そこで平成9年度からは、区毎に住宅地図を基に古そうな家を抽出して実地調査を行い、もれのないように茅葺民家リストを作成する事を目標にしました。具体的には平成9年度は中原区を対象とし、民家83件について実地調査して建築年代が明治期およびそれ以前にさかのぼる民家を48件確認しました。このうち茅葺民家と確認できたものは21件（鉄板葺改造9、瓦葺改造12）で、従来のリストで抽出された5件を大きく上回り、今回のような調査の必要性を実感しました。今後も一年間に1～2区を対象として委託調査を続け、出来るだけ早い時期により充実した「川崎市内の茅葺民家リスト」を作成したいと考えています。なお、平成9年度以降の調査対象民家には町家も含んでいるため、「川崎市内の町家リスト」作成への展開も期待できます。



中原区内に残る茅葺（鉄板覆い）・軒のつくり

# 民技会 25 周年

民家園を中心に活動してる民具製作技術保存会（略称民技会）が今年発足25周年を迎えました。

園内にたたずむ民家、そこにさらに生活の息吹きを与えたいと地元の古老を指導者としてわら細工などの民具製作実演会が開かれたのが昭和45年。この実演会を通して毎回熱心な見学者が生まれ、技術の習得を希望する人が増えてきました。そこで技術の保存・継承、人材育成を目的として昭和48年10月に会員32名で発足したのがこの会です。

現在会員は60余名で、「わら細工」「竹細工」「はた織り」、さらに研究・調査、記録等を行っている「研究」の4グループで構成され、活動が続けられています。発足の経緯から民家園に事務局を置いています、会費で運営する独立した会となっています。

活動は月2～3回の会員の勉強を兼ねた実演会、民家園の体験学習会「足半」「ぞうり」「しめ縄」「花籠」「はた織り」「草木染」といった講座の指導、年中行事展示の協力、などの他、民家園まつりの期間中（10・11月）には各グルー

プの作品展示会も行っています。

会の発足からこの25年間では区民祭などへの参加、近隣の博物館や学校などでの民具作りの指導の他、自作のワラジで歩く会といったユニークな活動も行われています。

研究では会員同士の研究発表や日本民具学会での発表と、レベルの高い研究活動が、またそれら民具調査をもとにした「民具の作り方」シリーズの刊行等活発な活動がされています。このような会の活動に対して安藤為次教育記念財団から奨励賞（昭和61年）、安田生命クオリティオブライフ財団より文化助成金（平成4年）などを受賞しています。

現在、会員に若い人が加入しており、今後さらに民技会の活躍が続きそうですが、25周年を期にさらに一層の発展を期待したいものです。

※会創設以来、初代会長関口源六氏を補佐し昭和57年から今春まで16年間第2代目の会長を務められ、会の発展に尽くされた横山真一氏が本年6月逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

## 蚕 影 山

蚕影山は関東から中部地方にかけて信仰される蚕の神として知られています。

川崎市内でも江戸時代から明治時代に盛んに養蚕が行われ、北部を中心に蚕影山信仰が残されていました。しかし戦後ナイロンなどの合成繊維におされ、農家でも養蚕がしだいに衰え、それとともにこの信仰も下火になりました。

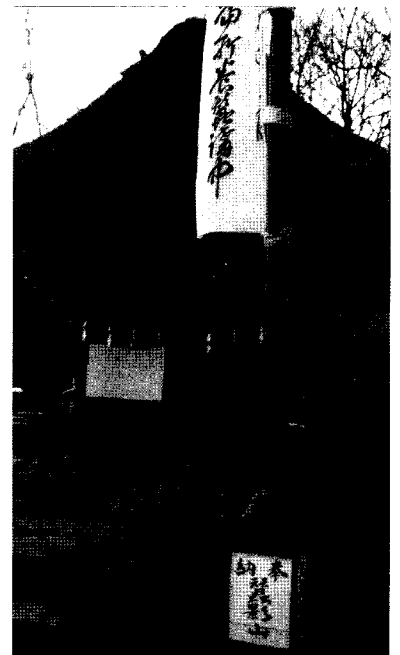
民家園に移築された蚕影山祠堂は、川崎市西北部、町田市・横浜市との境近くの麻生区岡上の東光院という寺の境内にあったものです。

建物は蚕影山大権現をまつった宮殿と、これを守る覆堂からなっており、宮殿の裏の文久3（1863）年の再建棟札から江戸末期に建てられたことがわかります。

本尊は馬鳴像および金色姫の2体が祀られており、宮殿の外面には、インドの姫である金色姫が4度の苦難を受け、舟で流され常陸国（現在の茨城県）に流れつき、やがて蚕に生れかわったという金色姫伝説が浮彫りにされています。これら社殿や本尊の他、蚕守護のための札や版木、掛軸なども伝えています。

民家園では移築後毎年お祭りを行っていましたが10年程前から中断してしまっていたので、今回民家園まつり中の11月1日から8日まで本尊をはじめとしてノボリなどを飾り、祭りを復活させます。この機会に是非とも蚕影山の祭りを御覧ください。

なお、現地では2月23日にお祭りを行っていましたが、今後は2月の年中行事の一つとしてこの祭りの展示を行っていく予定です。



## 冬の日本民家園講座

日本文化の深層に焦点をあてる

# 正月とは何か

1月24日・31日・2月7日・14日（各日曜 4回連続）

もはや元旦にも商店が営業するという時代、正月行事も次第に影をひそめ、人々の意識も大きく変わりました。厳粛な気持ちで新しい年を迎え、日本的なものが色濃く映し出された正月のありようとその意味をたずね、日本人の心性に迫ります。

	講師	テーマ
1月24日(日)	小島 環礼 (琉球大学教授)	正月とは何か
1月31日(日)	木下あけみ (日本民家園学芸員)	川崎近隣の 小正月行事
2月7日(日)	三輪 修三 (日本民家園園長)	戦国と近世の 資料からみた正月
2月14日(日)	神野 善治 (武蔵野美術大学助教授)	正月と道祖神

PM1:00～3:00 原家住宅にて

受講料：3,000円

お申込み方法：往復ハガキに住所・氏名・電話・講座名（正月とは何か）を記入のうえ1月11日（月）必着でお申し込みください。（定員40人を越えた場合は抽選となります。）

※講座の期間中、川崎市市民ミュージアムの協力で園内において全国各地の道祖神を展示します。

## 祈りの造形

日本仏教美術史入門講座

1月29日～3月26日の毎週金曜

（ただし2/12はのぞく 全8回）

講師 三輪修三（日本民家園園長）

高い芸術性を秘める仏教美術のイコノロジーを分かり易く解説します。

PM1:00～3:00 原家住宅にて

受講料：3,000円

お申込み方法：往復ハガキに住所・氏名・電話・講座名（祈りの造形）を記入のうえ1月14日（木）必着でお申し込みください。（定員40人を越えた場合は抽選となります。）

## 建物とくらし

民家園職員によるトーク集

2/11（祝）3. 合掌造屋根の見どころ

大野 敏

3/13（土）4. 民具入門

木下あけみ

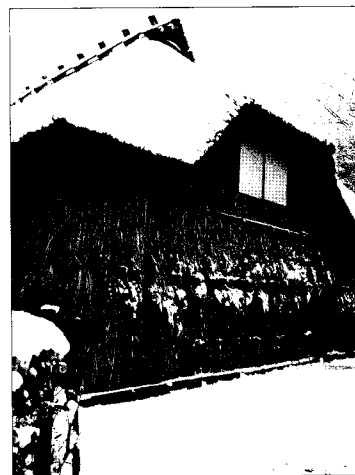
各回共13:30～15:30 原家集合 無料（ただし入園料は必要です。）

## 年中行事展示

12月～3月

# 雪囲い

雪国の民家では、冬のあいだ家のまわりを茅束（ススキやヨシなど）や茅スタレで囲って、雪が入ってこないようにします。民家園では山田家・菅原家で雪囲いを行います。



年末年始の休園日 12月27日（日）～1月5日（火）

〒214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-1 電話 044(922)2181 川崎市立日本民家園